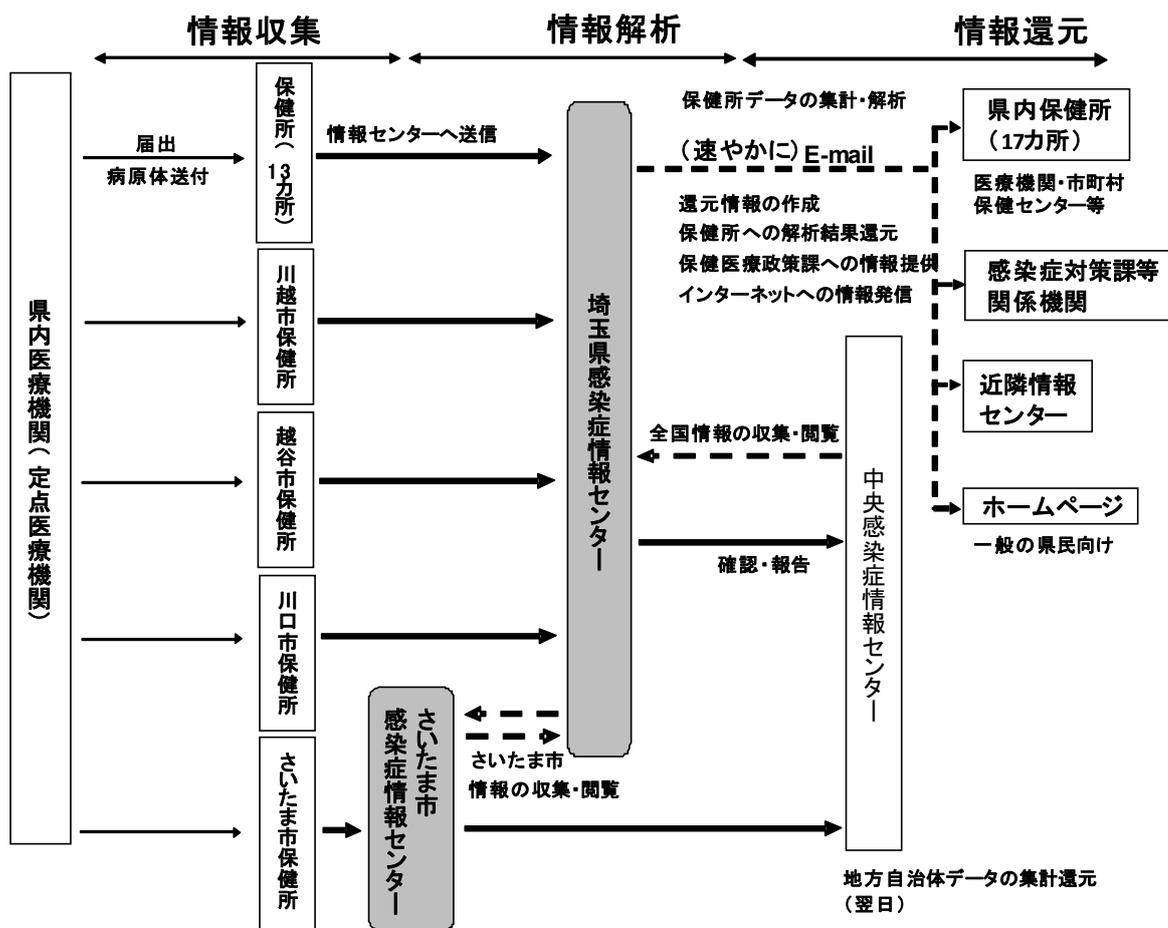


Ⅲ 事業報告

ここでは、感染症情報センターが行った事業について紹介する。感染症発生動向調査のように通常年単位で報告する事業は、年単位の集計結果を記載した。

1 感染症発生動向調査

埼玉県では、感染症法に基づき、感染症に関する情報の収集及び公表を目的とした感染症サーベイランスを感染症発生動向調査事業として実施している。本事業は、その実施要綱に基づき、地方自治体及び医師等医療関係者の協力と国との連携により事業体制が構築されている。当センターは、県内に設置されている政令指定都市及び保健所設置市の協力ののもと、基幹情報センターとして県内の感染症情報の収集及び公表を行っている(図Ⅲ-1-1)。



図Ⅲ-1-1 感染症発生動向調査による情報(患者・病原体)の流れ

令和 2 年の発生動向調査では、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。この改正により流行性角結膜炎の届出基準の項目にアデノウイルス抗原の検出が追加された。この変更は令和 2 年 4 月 1 日から施行された。また、令和元年に中華人民共和国で初めて報告された新型肺炎は、新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和 2 年 1 月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る)であるものに限る)として、令和 2 年 2 月 1 日から指定感染症に定められた(新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令(令和 2 年政令第 11 号 令和 2 年 1 月 28 日))。

また、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則第 4 条第 6 項の規定に基づき厚生労働大臣が定める 5 類感染症及び事項の一部を改正する件(平成 30 年厚生労働省告示第 365 号)」及び感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた。この改正の目的は、後天性免疫不全症候群及び梅毒について、より有効な対策を講じるための詳細な発生動向の情報収集である。この変更は平成 31 年 1 月 1 日から施行された。

本資料では、全数把握疾患は診断日が令和 2 年 1 月 1 日から 12 月 31 日に属する届出を、定点把握疾患のうち、週単位報告疾患は第 1 週(令和元年 12 月 30 日～令和 2 年 1 月 5 日)から 53 週(令和 2 年 12 月 28 日～令和 3 年 1 月 3 日)まで、月単位報告疾患は令和 2 年 1 月から 12 月までの報告を集計し県内の動向をまとめた。新型コロナウイルス感染症を除く疾患は従来と同じく NESID(感染症サーベイランスシステム)から令和 3 年 3 月に収集した情報を用いた。全数把握疾患の病原体については、令和 2 年 1 月 1 日から 12 月 31 日に県内の医療機関、埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。定点把握疾患の病原体については、同期間に病原体定点で採取され埼玉県衛生研究所、さいたま市健康科学研究センター、川越市保健所、越谷市保健所及び川口市保健所で検出された検査成績をまとめた。また、新型コロナウイルス感染症は県感染症対策課で収集した情報を用いた。なお、新型コロナウイルス感染症については令和 3 年 4 月時点での暫定値として、概要をまとめた。

(1) 患者情報

a. 全数把握対象疾患

全数把握対象疾患は、一類から四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症は診断後直ちに、五類感染症(侵襲性髄膜炎菌感染症、風しん及び麻しんは診断後直ちに届出)は7日以内に診断した医師から届出られる疾患である。

(a) 一類・二類感染症

一類感染症は、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者が届出の対象となるが、令和2年は疑似症を含め届出はなかった(表Ⅲ-1-1)。

二類感染症は、結核872人の届出があり、その他の二類感染症の届出はなかった(表Ⅲ-1-1)。

表Ⅲ-1-1 一類・二類・三類感染症 届出数

	疾患名	埼玉県		
		令和2年	令和元年	平成30年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	872	1,243	1,165
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	0	0	1
	細菌性赤痢	6	6	31
	腸管出血性大腸菌感染症	95	152	279
	腸チフス	1	1	1
	パラチフス	0	4	2

結核は、前年の1,243人と比べ大きく減少した。類型別では、患者630人、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)239人、疑似症3人であった。男性では、患者が416人、無症状病原体保有者が101人、疑似症患者が1人で、女性では、患者が214人、無症状病原体保有者が138人、疑似症患者が2人であった。年齢階級別では、男性は60歳以上が61.4%を占め、70歳代、80歳代の順に多く、女性は60歳以上が57.1%を占め、80歳代、70歳代の順が多かった。また、男性患者の60歳以上が占める割合は65.9%、女性患者では66.8%であった(表Ⅲ-1-2)。

表Ⅲ-1-2 結核 年齢階級別届出数(令和2年)

年齢階級	男性				女性				総数
	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	患者	無症状病原体保有者	疑似症患者	小計	
10歳未満	1	13	-	14	2	17	-	19	33
10歳代	6	1	-	7	2	4	-	6	13
20歳代	41	7	-	48	18	8	-	26	74
30歳代	26	6	-	32	16	12	-	28	60
40歳代	26	11	1	38	18	23	-	41	79
50歳代	42	19	-	61	15	17	-	32	93
60歳代	75	11	-	86	15	15	1	31	117
70歳代	91	19	-	110	37	22	1	60	170
80歳代	81	14	-	95	64*	17	-	81	176
90歳以上	27	-	-	27	27	3	-	30	57
合計	416	101	1	518	214	138	2	354	872
割合	47.7%	11.6%	0.1%	59.4%	24.5%	15.8%	0.2%	40.6%	100.0%

* 感染症死亡者の死体1例を含む

(-0)

(b) 三類感染症

三類感染症は、細菌性赤痢 6 人、腸管出血性大腸菌感染症 95 人、腸チフス 1 人の計 102 人の届出があった(表Ⅲ-1-1)。

細菌性赤痢は、男性 3 人、女性 3 人の計 6 人の届出があり、前年の 6 人と同数であった。症例の年齢は 10 歳未満から 50 歳代に分布した。類型別では、患者 5 人、無症状病原体保有者 1 人であった。いずれも診断方法は便からの分離・同定による病原体の検出であり、菌種は *flexneri*(B 群)及び *sonnei*(D 群)の検出が各 3 人であった。推定感染地域は国外が 5 人(タイあるいはパキスタンが 3 人、ニューカレドニア 2 人)、国内が 1 人であった。

腸管出血性大腸菌感染症は、男性 48 人、女性 47 人の計 95 人の届出があった。前年の 152 人より大きく減少した。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布した。年齢階級別では、20 歳代、10 歳代、10 歳未満、30 歳代の順に多かった。類型別では、患者 70 人、無症状病原体保有者 25 人で、患者が全体の 73.7%を占め、前年の 75.7%と同水準であった(表Ⅲ-1-3)。O 血清型は、O157 が 72 人と最も多く、次いで多かったのは O26 の 9 人で、O157 と O26 の全体に占める割合はそれぞれ 75.8%と 9.5%であった。年齢階級別では、O157 の検出が最も多かったのは 10 歳代、O26 の検出が最も多かったのは 20 歳代であった(表Ⅲ-1-3)。その他の血清型は O103 が 5 人、O121 が 2 人、O20、O74、O115、O181 が各 1 人、その他に型別不能(OUT)が 3 人であった。例年の流行期である 6 月～9 月の届出数は 6 月が 6 人、7 月が 11 人、8 月が 18 人、9 月が 26 人で、9 月を除き過去 5 年の中で最も少なかった。患者 95 人の症状は、腹痛が 61 人、水溶性

下痢 52 人、血便 41 人、発熱 15 人、嘔吐 9 人、急性腎不全 1 人で、溶血性尿毒症症候群(HUS)の発症者は認められなかった。

表Ⅲ-1-3 腸管出血性大腸菌感染症 年齢階級別届出数(令和 2 年)

年齢階級	症例数	性別		類型		血清型		
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者	O157	O26	その他
10歳未満	16	8	8	14	2	11	2	3
10歳代	17	10	7	14	3	15	1	1
20歳代	23	16	7	14	9	14	5	4
30歳代	15	8	7	7	8	12	-	3
40歳代	6	3	3	6	-	6	-	-
50歳代	4	-	4	3	1	3	-	1
60歳代	10	1	9	8	2	7	1	2
70歳代	3	1	2	3	-	3	-	-
80歳以上	1	1	-	1	-	1	-	-
合計	95	48	47	70	25	72	9	14
割合	100.0%	50.5%	49.5%	73.7%	26.3%	75.8%	9.5%	14.7%

(-0)

腸チフスは、7月に女性 90 歳代 1 人の届出があり、前年の 1 人と同数であった。類型は患者で、診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった。推定感染地域は国内であった。

(c) 四類感染症

四類感染症は、E 型肝炎 28 人、A 型肝炎 4 人、オウム病 1 人、ジカウイルス感染症 1 人、つつが虫病 2 人、デング熱 2 人、レジオネラ症 107 人の計 145 人の届出があった(表Ⅲ-1-4)。

E 型肝炎は、男性 23 人、女性 5 人の計 28 人の届出があり、前年の 21 人より増加した。症例の年齢は 20 歳代から 90 歳代に分布し、40 歳代及び 50 歳代の各 7 人が最も多かった。類型は患者が 24 人、無症状病原体保有者が 4 人で、診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgA 抗体の検出が 6 人、PCR 法による病原体遺伝子の検出のみが 2 人、血清 IgA 抗体の検出のみが 20 人であった。推定感染経路は経口感染 12 人、不明 16 人で、推定感染地域は国内 27 人、国外(中華人民共和国)1 人であった。届出は年間を通して確認され、無症状病原体保有者の 4 人は献血により探知された症例であった。

A 型肝炎は、男性 2 人、女性 2 人の計 4 人の届出があり、前年の 14 人より減少した。症例の年齢は 10 歳代、30 歳代、40 歳代及び 70 歳代で、類型は全て患者で、診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgM 抗体の検出が 2 人、血清 IgM 抗体の検出のみが 2 人であった。推

定感染経路は経口感染が 2 人、不明が 2 人で、推定感染地域は国内が 3 人、不明が 1 人であった。また、ワクチン接種歴は無しが 3 人、不明が 1 人であった。

前年発生が無かったオウム病は 5 月に女性 30 歳代 1 人の届出があった。診断方法は間接蛍光抗体法による血清抗体の検出で、推定感染経路はトリとの接触、推定感染地域は国内であった。

ジカウイルス感染症は、平成 28 年に対象疾患となって以来初めて、3 月に男性 30 歳代 1 人の届出があった。診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出で、推定感染地域はインドネシアであった。

つつが虫病は、11 月に男性 60 歳代 1 人、12 月に女性 80 歳代 1 人の計 2 人の届出があり、前年の 1 人を上回った。共に、診断方法は間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清 IgM 抗体の検出で、推定感染地域は国内(県内)であった。

表Ⅲ-1-4 四類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	令和2年	令和元年	平成30年		令和2年	令和元年	平成30年
E型肝炎	28	21	29	東部ウマ脳炎	0	0	0
ウエストナイル熱	0	0	0	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
A型肝炎	4	14	41	ニパウイルス感染症	0	0	0
エキノкокクス症	0	0	0	日本紅斑熱	0	1	0
黄熱	0	0	0	日本脳炎	0	0	0
オウム病	1	0	1	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
オムスク出血熱	0	0	0	Bウイルス病	0	0	0
回帰熱	0	0	0	鼻疽	0	0	0
キャサナル森林病	0	0	0	ブルセラ症	0	0	0
Q熱	0	0	0	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
狂犬病	0	0	0	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0	発しんチフス	0	0	0
サル痘	0	0	0	ボツリヌス症	0	1	0
ジカウイルス感染症	1	0	0	マラリア	0	2	7
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	野兔病	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0	ライム病	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0	リッサウイルス感染症	0	0	0
ダニ媒介性脳炎	0	0	0	リフトバレー熱	0	0	0
炭疽	0	0	0	類鼻疽	0	1	0
チクングニア熱	0	3	1	レジオネラ症	107	117	100
つつが虫病	2	1	4	レプトスピラ症	0	1	0
デング熱	2	16	2	ロッキー山紅斑熱	0	0	0

デング熱は、1月に女性20歳代1人、2月に女性60歳代1人の計2人の届出があり、前年の16人より減少した。共に、病型はデング熱で、診断方法は、NS1抗原の検出であった。推定感染地域は前者がフィリピン、後者がブラジルあるいはペルーであった。

レジオネラ症は、男性80人、女性27人の計107人の届出があり、前年の117人より減少した。症例の年齢は30歳代から90歳代に分布し、60歳以上が全体の77.8%を占めた。類型別では患者104人、無症状病原体保有者3人で、患者の病型別では肺炎型102人、ポンティアック熱型2人であった。年間を通して届出はあったが、月別の届出数は7月の18人、10月の15人、6月及び9月の各11人の順に多かった。診断方法は、酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が104人、PCR法またはLAMP法による病原遺伝子の検出が12人、分離・同定による病原体の検出が5人であった(重複例有り)。推定感染地域は、国内86人、国外1人、不明20人で、国内感染例のうち県内は77人であった。

(d) 五類感染症

五類感染症は、アメーバ赤痢30人、ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)6人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症81人、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)2人、急性脳炎23人、クロイツフェルト・ヤコブ病2人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症30人、後天性免疫不全症候群29人、侵襲性インフルエンザ菌感染症12人、侵襲性髄膜炎菌感染症2人、侵襲性肺炎球菌感染症63人、水痘(入院例)13人、梅毒168人、播種性クリプトコックス症10人、破傷風5人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1人、百日咳108人、風しん4人の計589人の届出があった(表Ⅲ-1-5)。

表Ⅲ-1-5 五類感染症 届出数

疾患名	埼玉県			疾患名	埼玉県		
	令和2年	令和元年	平成30年		令和2年	令和元年	平成30年
アメーバ赤痢	30	36	44	侵襲性肺炎球菌感染症	63	137	137
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	6	5	10	水痘(入院例)	13	17	13
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	81	90	94	先天性風しん症候群	0	1	0
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)*	2	4	6	梅毒	168	205	234
急性脳炎	23	59	37	播種性クリプトコックス症	10	9	3
クリプトスポリジウム症	0	0	0	破傷風	5	4	3
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	8	6	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	30	30	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	2	5
後天性免疫不全症候群	29	46	31	百日咳*	108	704	719
ジアルジア症	0	0	2	風しん	4	198	190
侵襲性インフルエンザ菌感染症	12	17	23	麻しん	0	35	16
侵襲性髄膜炎菌感染症	2	0	1	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	1	8

*百日咳は平成30年1月1日、急性弛緩性麻痺は平成30年5月1日から五類感染症の届出対象疾患となった

アメーバ赤痢は、男性 24 人、女性 6 人の計 30 人の届出があり、前年の 36 人より減少した。症例の年齢は 20 歳代から 70 歳代に分布し、50 歳代の 14 人が最も多く、次いで 60 歳代の 7 人の順に多かった。届出は年間を通して確認された。病型別では、腸管アメーバ症 28 人、腸管及び腸管外アメーバ症 2 人であった。診断方法は、いずれも鏡検による病原体の検出で、腸管及び腸管外アメーバ症の 2 人には、肝膿瘍の所見が認められた。推定感染経路は経口感染及び性的接触が各 6 人、不明 18 人で、性的接触の内訳は異性間性的接触及び異性同性不明が各 3 人であった。推定感染地域は、国内 22 人、不明 8 人であった。

ウイルス性肝炎(E 型・A 型を除く)は、B 型肝炎 5 人、その他のウイルス性肝炎 1 人の計 6 人の届出があり、前年の 5 人を上回った。C 型肝炎の届出はなかった。B 型肝炎は 1 月から 6 月に男性 5 人の届出があった。症例の年齢は 10 歳代から 50 歳代に分布した。いずれも、診断方法は血清 IgM 抗体(HBc 抗体)の検出であった。ウイルスの遺伝子型は B 型が 3 人、A 型が 2 人であった。推定感染経路は性的接触が 4 人、不明が 1 人で、性的接触の内訳は異性間性的接触及び異性同性不明が各 2 人であった。また、推定感染地域はいずれも国内であった。その他のウイルス性肝炎は、サイトメガロウイルスによる肝炎が 6 月に女性 20 歳代の届出があった。診断方法は、サイトメガロウイルスに対する IgM 抗体及び IgG 抗体の検出であった。推定感染経路は異性間性的接触で、推定感染地域は国内であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は、男性 50 人、女性 31 人の計 81 人の届出があり、前年の 90 人より減少した。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代まで幅広く分布したが、60 歳以上が 64 人で全体の 79.0%を占めた。症状は菌血症・敗血症が 36 人、尿路感染症が 20 人、胆嚢炎・胆管炎が 13 人、肺炎が 11 人、腸炎・腹膜炎が 7 人、髄膜炎 2 人であった(重複例有り)。検査検体で多かったのは、血液の 39 検体、喀痰及び尿の各 11 検体であった(重複例有り)。分離された菌は多い順に *Klebsiella aerogenes* が 37 株、*Enterobacter cloacae* が 20 株、*K. pneumoniae*、*Escherichia coli* 及び *Serratia marcescens* が各 5 株、*Citrobacter freundii* が 3 株、*K. oxytoca* 及び *E. cancerogenus* が各 2 株、*E. asburiae* が 1 株で、この他に *Enterobacter* sp. が 1 株報告された。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)は、4 月に男性 5 歳未満 1 人、8 月に女性 10-14 歳 1 人の計 2 人の届出があり、前年の 4 人を下回った。いずれも病原体は不明であった。ワクチン接種歴は前者が有り、後者が不明であった。推定感染経路は前者が飛沫・飛沫核感染、後者が不明で、推

定感染地域はいずれも国内であった。

急性脳炎は、男性 9 人、女性 14 人の計 23 人の届出があり、前年の 59 人より大きく減少した。症例の年齢は 0 歳から 70 歳代に分布し、階級別では 1-4 歳の 13 人が最も多かった。病原体別では、インフルエンザウイルスによるものが 9 人(A 型 7 人、型不明 2 人)、ヘルペスウイルスが 3 人、ヒトメタニューモウイルスが 2 人で、病原体が特定されなかったのは 9 人であった。また、届出は 1 月から 7 月及び 11 月にあり、インフルエンザウイルスが検出された患者は、1 月及び 2 月に診断されていた。推定感染地域は、全て国内(県内 21 人)であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)は、5 月に女性 60 歳代 1 人、8 月に男性 70 歳代 1 人の計 2 人の届出があり、前年の 8 人より減少した。病型はいずれも古典型 CJD で、診断の確実度は、前者がほぼ確実、後者が疑いであった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、男性 18 人、女性 12 人の計 30 人の届出があり、前年と同数であった。症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布し、60 歳以上が 21 人で全体の 70.0%を占めた。届出は 10 月を除く各月にあり、1 月の 6 人が最も多かった。診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で、血清群は A 群が 14 人、G 群が 13 人、B 群が 3 人であった。推定される感染経路は創傷感染が 14 人、接触感染が 1 人、その他が 1 人、不明が 14 人で、推定感染地域は国内が 26 人(県内 23 人)、不明が 4 人であった。

後天性免疫不全症候群は、男性 29 人の届出があり、前年の 46 人より減少した。女性の届出はなかった。症例の年齢は 10 歳代から 50 歳代に分布し、20 歳代から 40 歳代が 26 人で、全体の 89.7%を占めた。病型は AIDS が 11 人で、その指標疾患はサイトメガロウイルス感染症(生後 1 カ月以後で、肺、脾、リンパ節以外)、カンジダ症(食道、気管、気管支、肺)が各 4 人、ニューモシスティス肺炎が 3 人、クリプトコッカス症(肺以外)、HIV 脳症が各 2 人、反復性肺炎、HIV 消耗性症候群(全身衰弱又はスリム病)が各 1 人であった(重複例有り)。また、無症状病原体保有者が 18 人であった。推定される感染経路では性的接触が 25 人、不明が 4 人で、性的接触の内訳は同性間性的接触が 21 人、異性間性的接触が 4 人であった。また、病型別の年齢分布では、AIDS は 20 歳代から 40 歳代に分布し、40 歳代の 7 人が最も多かった。無症状病原体保有者は 10 歳代から 50 歳代に分布し、20 歳代の 8 人が最も多かった(表 III-1-6)。

表Ⅲ-1-6 後天性免疫不全症候群性別内訳(令和2年)

		男性 n=29		
		届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	-	0.0%	
	10歳代	1	3.4%	
	20歳代	10	34.5%	
	30歳代	4	13.8%	
	40歳代	12	41.4%	
	50歳代	2	6.9%	
	60歳代	-	0.0%	
	70歳代	-	0.0%	
	80歳以上	-	0.0%	
病型	AIDS	11	37.9%	
	その他	-	0.0%	
	無症状病原体保有者	18	62.1%	
推定感染地域	日本国内	18	62.1%	
	その他(国外)	3	10.3%	
	不明	8	27.6%	
国籍	日本	24	82.8%	
	その他	3	10.3%	
	不明	2	6.9%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	4	13.8%
		同性間性的接触	21	72.4%
		異性・同性間性的接触	-	0.0%
		異性・同性不明性的接触	-	0.0%
	不明	4	13.8%	

(届出数-:0)

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、男性4人、女性8人の計12人の届出があり、前年の17人より減少した。症例の年齢は0歳から90歳代に分布し、0歳及び1-4歳で各1人、40歳以上で10人の報告があった。診断方法は、血液からの分離・同定による病原体の検出が11人であった。残りの1人は髄液からの分離・同定による病原体の検出及び血液からのPCR法による病原体遺伝子の検出で、血清群はB群であった。ヒブワクチン接種歴は、有りが1人(1-4歳)、無しが5人(0歳を含む)、不明が6人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が3人、不明が7人で、残りの2人は従来からの保菌、医療機器からの感染が疑われていた。推定感染地域は全て国内(県内11人)であった。

前年発生がなかった侵襲性髄膜炎菌感染症は1月に男性5歳未満1人、3月に女性40歳代1人の計2人の届出があった。診断方法は、前者が髄液及び血液からの分離・同定による病原体の検出及びPCR法による病原体遺伝子の検出で、血清群はB群、後者が血液からの分離・同定による病原体の検出で、血清群は不明であった。推定感染経路は前者が不明、後者が飛沫・飛沫核感染、推定感染地域は前者が国内(県内)、後者はブラジルであった。

侵襲性肺炎球菌感染症は、男性 40 人、女性 23 人の計 63 人の届出があり、前年の 137 人より減少した。症例の年齢は 1 歳から 90 歳代に分布し、60 歳以上が 41 人で全体の 65.1%を占めた。20 歳未満では 1-4 歳が 5 人、5-9 歳が 3 人、10-14 歳、15-19 歳が各 1 人の報告があった。診断方法は全て分離同定による病原体の検出であった。検体の種類は血液が 61 人、髄液が 4 人、その他の無菌部位(関節液)が 1 人であった(重複例有り)。症状は発熱が 54 人(85.7%)、菌血症が 52 人(82.5%)、肺炎が 25 人(39.7%)に認められた。ワクチン接種歴は、20 歳未満では有りが 8 人、無しが 2 人で、20 歳以上では、有りが 70 歳以上の 3 人及び 30 歳代の 1 人の計 4 人、無しが 14 人、不明が 35 人であった。推定感染地域は国内が 61 人(県内 53 人)、不明が 2 人であった。

水痘(入院例)は、男性 9 人、女性 4 人の計 13 人の届出があり、前年の 17 人を下回った。症例の年齢は 1 歳から 90 歳代に分布した。病型別では検査診断例が 7 例、臨床診断例が 6 例で、検査診断例の診断方法は、血清 IgM 抗体の検出が 5 人、分離・同定による病原体の検出が 2 人であった。ワクチン接種歴は無しが 3 人、不明が 10 人であった。感染経路は、家族等からの感染が 4 人、入院中の院内感染が 3 人、不明が 6 人で、推定感染地域は国内が 12 人(全て県内)、不明が 1 人であった。

梅毒は、男性 114 人、女性 54 人の計 168 人の届出があり、前年の 205 人より減少した。性比(男/女)は 2.11 で、前年の 2.06 と同等であった。症例の年齢は、男性では 0 歳から 70 歳代に分布し、40 歳代が最も多く 20 歳代から 40 歳代が 76.3%を占めた。女性では 0 歳代から 80 歳代に分布し、20 歳代が最も多く 20 歳代から 40 歳代が 70.4%を占めた。病型は、男性では早期顕症梅毒(I 期)が 53 人、早期顕症梅毒(II 期)が 24 人、晩期顕症梅毒が 3 人、先天梅毒が 1 人、無症状病原体保有者が 33 人で、女性では早期顕症梅毒(I 期)が 12 人、早期顕症梅毒(II 期)が 18 人、晩期顕症梅毒が 1 人、先天梅毒が 4 人、無症状病原体保有者が 19 人であった。また、先天梅毒は、平成 27 年、平成 28 年、平成 30 年に各 1 人の届出があったが、令和 2 年は 5 人と大きく増加した。推定感染経路は、男性では性行為感染が 100 人、母子感染が 1 人、不明が 13 人、女性では性行為感染が 41 人、母子感染が 4 人、不明が 9 人であった。性行為感染の内訳では、異性間性的接触が男女共に最も多く、男性が 58 人、女性が 33 人であった(表 III-1-7)。性風俗産業の直近 6 か月以内の利用歴・従事歴は、利用歴が男性の 28.9%、従事歴が女性の 14.8%に認められた。HIV 感染症との合併は男性 11 人、妊娠は女性 7 人に認められた。また、推定感染地域は国内が 127 人、国外が 1 人、不明が 40 人であった。

表Ⅲ-1-7 梅毒性別内訳(令和2年)

		男性 n=114		女性 n=54		
		届出数	割合	届出数	割合	
年齢階級	10歳未満	1	0.9%	4	7.4%	
	10歳代	2	1.8%	4	7.4%	
	20歳代	25	21.9%	19	35.2%	
	30歳代	29	25.4%	10	18.5%	
	40歳代	33	28.9%	9	16.7%	
	50歳代	15	13.2%	5	9.3%	
	60歳代	5	4.4%	-	0.0%	
	70歳代	4	3.5%	1	1.9%	
	80歳以上	-	0.0%	2	3.7%	
病型	早期顕症梅毒(I期)	53	46.5%	12	22.2%	
	早期顕症梅毒(II期)	24	21.1%	18	33.3%	
	晩期顕症梅毒	3	2.6%	1	1.9%	
	先天梅毒	1	0.9%	4	7.4%	
	無症状病原体保有者	33	28.9%	19	35.2%	
推定感染経路	性行為感染	異性間性的接触	58 *	50.9%	33	61.1%
		同性間性的接触	18	15.8%	-	0.0%
		異性・同性間性的接触	2	1.8%	1	1.9%
		異性・同性不明性的接触	22	19.3%	7	13.0%
	性行為以外	母子感染	1	0.9%	4	7.4%
	不明		13	11.4%	9	16.7%

*性行為に加え、針等の鋭利なものの刺入による感染が疑われた1例を含む (届出数-0)

播種性クリプトコックス症は、男性8人、女性2人の計10人の届出があり、前年の9人を上回った。症例の年齢は40歳代から80歳代に分布した。診断方法は、分離・同定による病原体の検出が7人、病理組織学的診断が3人、ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出が3人であった(重複例有り)。感染原因では、ステロイド内服等による免疫不全が7人、鳥類の糞などとの接触が1人、鳥類の糞などとの接触及び免疫不全が1人、原因不明が1人であった。推定感染地域はいずれも国内(全て県内)であった。

破傷風は、男性3人、女性2人の計5人の届出があり、前年の4人を上回った。症例の年齢は60歳代から80歳代に分布した。いずれも、診断方法は臨床決定、推定感染経路は創傷感染、推定感染地域は国内(全て県内)であった。破傷風含有ワクチンの接種歴は、有りが1人、不明が4人であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は、4月に女性80歳代の届出があり、前年の2人を下回った。診断方法は分離同定による腸球菌の検出で、MIC(Minimum inhibitory concentration)測定が行われており、便から *Enterococcus faecium* が分離されていた。推定感染地域は国内であった。

百日咳は、男性35人、女性73人の計108人の届出があり、前年の704

人より大きく減少した。症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し、階級別では 5-9 歳 32 人、10-14 歳 20 人の順に多く、20 歳未満が 68 人で全体の 63.0%を占めた。診断方法は病原体遺伝子の検出が 30 人、単一血清で抗体価の高値が 68 人、ペア血清で抗体価の有意上昇が 3 人であった(重複例有り)。また、検査所見を認めないが、検査確定例と接触が有りかつ臨床的特徴を有した者が 1 人であった。ワクチン接種歴は有りが 60 人、無しが 7 人、不明が 41 人で、接種歴は有りのうち 4 回接種者は 56 人であった。また、0 歳では接種歴有りが 2 人(接種回数 3 回)、無しが 6 人であった。また、0 歳の推定感染経路は、家族からの感染が 5 人、不明が 3 人で、家族の内訳は同胞が 2 人、父母が 3 人、祖父母等が 1 人であった(重複例有り)。推定感染地域は国内が 85 人(県内 78 人)、不明が 23 人であった。

風しんは、男性 1 人、女性 3 人の計 4 人の届出があり、前年の 198 人より大きく減少した。症例の年齢は 1 歳から 30 歳代に分布した。病型は検査診断例、臨床診断例が各 2 人であった。検査診断例 2 人の診断方法は、いずれも血清 IgM 抗体の検出であった。ワクチン接種歴は、接種回数 1 回が 2 人、不明が 2 人であった。推定感染経路はいずれも不明で、推定感染地域は国内が 2 人、不明が 2 人であった。

(e) 獣医師が届出を行う感染症

令和 2 年に獣医師が届出を行うエボラ出血熱(サル)、マールブルグ病(サル)、ペスト(プレーリードッグ)、重症急性呼吸器症候群(イタチアナグマ、タヌキ、ハクビシン)、結核(サル)、鳥インフルエンザ(H5N1 又は H7N9)(鳥類)、細菌性赤痢(サル)、ウエストナイル熱(鳥類)、エキノコックス症(イヌ)、中東呼吸器症候群(ヒトコブラクダ)の届出はなかった。

b. 定点把握対象疾患

定点把握による感染症発生動向調査は、指定届出機関(定点医療機関)からの患者情報を収集解析し、情報還元を行っている。内科、小児科、眼科及び基幹定点週報分は、月曜日から日曜日までを 1 週間の単位として、性感染症及び基幹定点月報分は月単位で集計した。

なお、令和 2 年の報告定点数は、週単位報告のインフルエンザ定点が 13,354 機関、小児科定点が 8,443 機関、眼科定点が 2,104 機関、基幹定点が 583 機関、月単位報告の性感染症定点が 705 機関、基幹定点が 132 機関であった。各定点区分別報告数と定点当たり報告数を表 III-1-8 から表 III-1-12、性感染症の性年齢階級別報告数を表 III-1-13 に示す。

(a) 週単位報告の感染症(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点報告)

インフルエンザの 2019-2020 年シーズンの流行は、令和元年第 51 週(12/16~22)に定点当たり 29.57 の最大値を観察し、令和 2 年の年明け後は緩やかに減少した。2020-2021 年シーズンの流行は観察されなかった。

RS ウイルス感染症は、夏から秋にかけての流行は観察されなかった。報告された患者の年齢は 1 歳未満が 187 人、1 歳が 178 人であった。咽頭結膜熱は、夏季の流行は観察されず、冬季流行も小規模であった。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、1 月から 2 月までは例年同様に推移したが、3 月以降は例年と異なる低い水準で推移した。感染性胃腸炎は、3 月以降例年を下回る水準で推移し、冬季流行は観察されなかった。水痘は、3 月中旬以降、前年を下回る水準で推移した。手足口病は、夏季の流行は観察されなかった。伝染性紅斑は、4 月中旬以降定点当たり 0.1 を下回り、平成 30 年から始まった流行は終息した。突発性発しんは、3 月から 5 月までは例年を下回る水準で推移した。ヘルパンギーナ、夏季の流行は観察されなかった。流行性耳下腺炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、平成 30 年以降非流行期が続いている。

急性出血性結膜炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、低い水準が続いている。流行性角結膜炎は、前年の定点当たり報告患者総数を下回り、年間を通して大きな変動は観察されなかった。

細菌性髄膜炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は 0.22~1.89 であった。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 1.09 で、報告は例年同様に散発的であった。無菌性髄膜炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は 1.89~6.00 であった。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 2.00 で、報告は例年同様に断続的であった。マイコプラズマ肺炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は 8.41(平成 30 年)~128.11(平成 24 年)であった。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 7.91 で、過去 10 年の最小値を僅かに下回った。クラミジア肺炎の過去 10 年の定点当たり報告患者総数の変動幅は 0.09(令和元年)~6.00(平成 24 年)であった。令和 2 年は患者の報告は無く、過去 10 年の最小値を下回った。感染性胃腸炎(ロタウイルス)は平成 25 年第 42 週から報告対象疾患となり、平成 26 年以降の定点当たり報告患者総数の変動幅は 4.02~11.40 であった。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 0.09 で、過去 6 年の最小値を大きく下回った。インフルエンザ(入院患者)は平成 23 年第 36 週から報告対象疾患となり、平成 24 年以降の定点当たり報告患者総

数の変動幅は 14.60～52.64 であった。令和 2 年の定点当たり報告患者総数 11.91 で、過去 8 年の最小値を下回った。

(b) 月単位報告の感染症(基幹定点、性感染症定点)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 11 年の感染症法施行後およそ 10 年間は 30.00 を超えていたが、平成 25 年以降は 20.00 を下回っている。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 14.55 で、全国より少なかった。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 17 年から平成 23 年は 10.00 を超えていた。その後は低い水準で推移している。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 2.55 で、全国より多かった。薬剤耐性緑膿菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 19 年までは 1.00 以上であったが、平成 20 年から令和元年までは 0.09～0.89 で推移している。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 0.55 で、全国より多かった。性器クラミジア感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 19 年までは 30.00 を上回っていたが、平成 20 年から令和元年までは 24.12～28.72 で推移している。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 27.19 で、全国と同等であった。性器ヘルペスウイルス感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 13 年以降では、5.82～9.50 で推移している。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 8.42 で、全国より少なかった。尖圭コンジローマの定点当たり報告患者総数は、平成 13 年以降では、3.84～6.28 で推移している。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は 4.24 で、全国より少なかった。淋菌感染症の定点当たり報告患者総数は、平成 13 年以降では、7.12～17.44 で推移している。令和 2 年の定点当たり報告患者総数は過去最低の 6.47 で、全国より少なかった。

c. 感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

令和 2 年の埼玉県における「発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの」の届出はなかった。

表Ⅲ-1-8 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)

週単位報告患者数の推移(令和2年)

週	月／日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	12/30	2,761	30	36	133	217	65	13	16	7	-	4	-	5
2	01/06	4,919	51	99	435	1,090	179	31	50	42	1	7	1	23
3	01/13	4,427	49	86	433	1,200	77	26	37	69	3	15	1	16
4	01/20	4,335	53	78	571	1,416	97	36	55	59	2	11	-	19
5	01/27	3,805	49	83	622	1,393	71	39	30	47	2	7	3	14
6	02/03	2,426	56	67	643	1,388	81	30	34	43	5	13	-	6
7	02/10	2,113	29	62	606	1,241	94	23	35	58	3	15	-	20
8	02/17	1,785	51	50	665	1,184	75	24	29	45	-	8	-	26
9	02/24	1,246	46	62	569	776	85	19	21	49	3	10	-	17
10	03/02	903	42	62	501	669	105	13	26	50	1	7	1	20
11	03/09	365	21	55	410	571	106	15	16	35	1	10	2	9
12	03/16	108	18	45	229	370	68	16	24	54	-	10	1	11
13	03/23	62	11	37	218	400	57	6	15	45	1	13	2	13
14	03/30	38	8	28	184	344	35	14	11	51	1	11	1	14
15	04/06	12	8	23	172	257	31	11	24	56	2	10	1	12
16	04/13	4	5	14	111	192	32	8	3	45	1	15	3	11
17	04/20	-	3	14	77	171	18	5	9	71	2	11	-	9
18	04/27	1	1	4	69	151	12	11	6	56	1	9	-	4
19	05/04	-	1	4	46	121	13	7	5	29	2	4	-	6
20	05/11	-	2	8	53	168	14	15	3	66	2	9	1	7
21	05/18	-	-	7	41	167	9	10	3	51	3	11	-	8
22	05/25	-	-	7	59	198	9	7	2	63	2	5	2	8
23	06/01	-	-	9	70	216	12	22	6	70	4	11	-	9
24	06/08	1	-	5	58	286	30	28	2	97	4	13	-	6
25	06/15	-	-	6	66	344	11	26	-	93	4	8	2	6
26	06/22	-	-	6	115	432	4	20	4	112	4	16	1	7
27	06/29	3	2	7	177	518	20	25	7	103	14	12	-	9
28	07/06	-	2	7	160	506	18	29	1	98	6	9	3	13
29	07/13	-	2	17	138	502	20	17	3	108	9	11	1	7
30	07/20	-	3	10	81	333	20	18	3	97	4	7	1	3
31	07/27	1	-	9	99	371	27	14	3	91	14	12	1	10
32	08/03	-	1	10	55	284	35	20	2	94	29	10	-	8
33	08/10	-	-	20	33	175	29	19	2	52	8	4	-	3
34	08/17	-	-	15	50	288	33	20	1	82	18	10	3	11
35	08/24	-	-	28	65	402	16	18	5	95	16	14	3	11
36	08/31	-	-	44	93	413	14	12	2	87	36	14	1	9
37	09/07	-	3	34	63	403	25	14	7	111	33	19	-	12
38	09/14	-	-	37	61	359	24	15	3	105	21	14	-	11
39	09/21	-	-	20	56	303	16	18	2	80	16	10	-	4
40	09/28	-	-	28	113	350	24	14	8	72	9	14	1	12
41	10/05	-	2	17	126	379	17	10	1	98	17	19	-	18
42	10/12	-	-	17	127	371	17	4	11	94	13	6	-	15
43	10/19	-	-	21	101	391	31	6	8	69	15	8	-	12
44	10/26	1	1	25	147	381	26	4	3	79	14	7	2	10
45	11/02	-	-	27	113	371	29	3	2	75	13	17	1	10
46	11/09	-	-	29	107	394	43	9	3	73	10	15	-	12
47	11/16	5	-	53	101	372	40	5	7	78	5	12	-	10
48	11/23	-	-	42	79	384	53	2	1	74	6	16	-	9
49	11/30	2	2	55	123	405	35	1	2	65	6	11	-	12
50	12/07	-	2	56	132	399	42	3	4	79	14	11	-	6
51	12/14	1	2	44	112	375	41	3	4	79	6	13	-	6
52	12/21	1	2	48	112	365	37	7	1	59	3	9	-	5
53	12/28	2	1	19	37	129	21	1	-	25	1	4	-	6
令和2年	計	29,327	559	1,696	9,817	24,885	2,143	786	562	3,685	410	571	39	560
令和元年	計	120,490	5,914	4,104	22,258	50,700	4,319	25,922	6,752	3,665	6,133	952	73	1,158
令和2年/令和元年比		0.2	0.1	0.4	0.4	0.5	0.5	0.0	0.1	1.0	0.1	0.6	0.5	0.5

(-:0)

表Ⅲ-1-9 定点把握対象疾患(インフルエンザ・小児科・眼科)

週単位定点当たり報告数の推移(令和2年)

週	月/日(週開始日)	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
1	12/30	12.22	0.22	0.26	0.96	1.57	0.47	0.09	0.12	0.05	-	0.03	-	0.15
2	01/06	19.29	0.32	0.62	2.72	6.81	1.12	0.19	0.31	0.26	0.01	0.04	0.03	0.61
3	01/13	17.29	0.30	0.53	2.67	7.41	0.48	0.16	0.23	0.43	0.02	0.09	0.02	0.39
4	01/20	16.80	0.33	0.48	3.50	8.69	0.60	0.22	0.34	0.36	0.01	0.07	-	0.46
5	01/27	14.81	0.30	0.51	3.84	8.60	0.44	0.24	0.19	0.29	0.01	0.04	0.07	0.34
6	02/03	9.51	0.35	0.41	3.97	8.57	0.50	0.19	0.21	0.27	0.03	0.08	-	0.15
7	02/10	8.19	0.18	0.38	3.72	7.61	0.58	0.14	0.21	0.36	0.02	0.09	-	0.49
8	02/17	7.06	0.32	0.31	4.16	7.40	0.47	0.15	0.18	0.28	-	0.05	-	0.63
9	02/24	4.83	0.28	0.38	3.49	4.76	0.52	0.12	0.13	0.30	0.02	0.06	-	0.41
10	03/02	3.51	0.26	0.38	3.07	4.10	0.64	0.08	0.16	0.31	0.01	0.04	0.02	0.49
11	03/09	1.42	0.13	0.34	2.53	3.52	0.65	0.09	0.10	0.22	0.01	0.06	0.05	0.22
12	03/16	0.42	0.11	0.28	1.42	2.30	0.42	0.10	0.15	0.34	-	0.06	0.02	0.27
13	03/23	0.24	0.07	0.23	1.37	2.52	0.36	0.04	0.09	0.28	0.01	0.08	0.05	0.33
14	03/30	0.15	0.05	0.18	1.15	2.15	0.22	0.09	0.07	0.32	0.01	0.07	0.02	0.33
15	04/06	0.05	0.05	0.14	1.08	1.61	0.19	0.07	0.15	0.35	0.01	0.06	0.03	0.30
16	04/13	0.02	0.03	0.09	0.70	1.21	0.20	0.05	0.02	0.28	0.01	0.09	0.07	0.26
17	04/20	-	0.02	0.09	0.48	1.07	0.11	0.03	0.06	0.44	0.01	0.07	-	0.22
18	04/27	-	0.01	0.03	0.47	1.03	0.08	0.07	0.04	0.38	0.01	0.06	-	0.11
19	05/04	-	0.01	0.03	0.29	0.76	0.08	0.04	0.03	0.18	0.01	0.03	-	0.15
20	05/11	-	0.01	0.05	0.33	1.04	0.09	0.09	0.02	0.41	0.01	0.06	0.03	0.18
21	05/18	-	-	0.04	0.25	1.03	0.06	0.06	0.02	0.31	0.02	0.07	-	0.20
22	05/25	-	-	0.04	0.36	1.22	0.06	0.04	0.01	0.39	0.01	0.03	0.05	0.20
23	06/01	-	-	0.06	0.43	1.33	0.07	0.14	0.04	0.43	0.02	0.07	-	0.23
24	06/08	-	-	0.03	0.36	1.77	0.19	0.17	0.01	0.60	0.02	0.08	-	0.15
25	06/15	-	-	0.04	0.41	2.12	0.07	0.16	-	0.57	0.02	0.05	0.05	0.15
26	06/22	-	-	0.04	0.71	2.67	0.02	0.12	0.02	0.69	0.02	0.10	0.03	0.18
27	06/29	0.01	0.01	0.04	1.10	3.22	0.12	0.16	0.04	0.64	0.09	0.07	-	0.23
28	07/06	-	0.01	0.04	1.00	3.16	0.11	0.18	0.01	0.61	0.04	0.06	0.08	0.33
29	07/13	-	0.01	0.11	0.87	3.16	0.13	0.11	0.02	0.68	0.06	0.07	0.03	0.18
30	07/20	-	0.02	0.06	0.50	2.07	0.12	0.11	0.02	0.60	0.02	0.04	0.03	0.08
31	07/27	-	-	0.06	0.62	2.32	0.17	0.09	0.02	0.57	0.09	0.08	0.03	0.26
32	08/03	-	0.01	0.07	0.36	1.86	0.23	0.13	0.01	0.61	0.19	0.07	-	0.24
33	08/10	-	-	0.14	0.24	1.25	0.21	0.14	0.01	0.37	0.06	0.03	-	0.08
34	08/17	-	-	0.09	0.32	1.82	0.21	0.13	0.01	0.52	0.11	0.06	0.08	0.28
35	08/24	-	-	0.17	0.40	2.50	0.10	0.11	0.03	0.59	0.10	0.09	0.08	0.28
36	08/31	-	-	0.27	0.58	2.57	0.09	0.07	0.01	0.54	0.22	0.09	0.03	0.24
37	09/07	-	0.02	0.21	0.39	2.50	0.16	0.09	0.04	0.69	0.20	0.12	-	0.29
38	09/14	-	-	0.25	0.40	2.38	0.16	0.10	0.02	0.70	0.14	0.09	-	0.31
39	09/21	-	-	0.12	0.35	1.88	0.10	0.11	0.01	0.50	0.10	0.06	-	0.10
40	09/28	-	-	0.17	0.70	2.16	0.15	0.09	0.05	0.44	0.06	0.09	0.02	0.29
41	10/05	-	0.01	0.10	0.78	2.34	0.10	0.06	0.01	0.60	0.10	0.12	-	0.44
42	10/12	-	-	0.11	0.79	2.30	0.11	0.02	0.07	0.58	0.08	0.04	-	0.38
43	10/19	-	-	0.13	0.62	2.41	0.19	0.04	0.05	0.43	0.09	0.05	-	0.29
44	10/26	-	0.01	0.15	0.91	2.35	0.16	0.02	0.02	0.49	0.09	0.04	0.05	0.26
45	11/02	-	-	0.17	0.70	2.29	0.18	0.02	0.01	0.46	0.08	0.10	0.02	0.24
46	11/09	-	-	0.18	0.66	2.43	0.27	0.06	0.02	0.45	0.06	0.09	-	0.30
47	11/16	0.02	-	0.34	0.66	2.42	0.26	0.03	0.05	0.51	0.03	0.08	-	0.26
48	11/23	-	-	0.26	0.48	2.36	0.33	0.01	0.01	0.45	0.04	0.10	-	0.22
49	11/30	0.01	0.01	0.35	0.77	2.55	0.22	0.01	0.01	0.41	0.04	0.07	-	0.30
50	12/07	-	0.01	0.35	0.82	2.48	0.26	0.02	0.02	0.49	0.09	0.07	-	0.15
51	12/14	-	0.01	0.27	0.69	2.31	0.25	0.02	0.02	0.49	0.04	0.08	-	0.15
52	12/21	-	0.01	0.30	0.70	2.28	0.23	0.04	0.01	0.37	0.02	0.06	-	0.13
53	12/28	0.01	0.01	0.13	0.25	0.88	0.14	0.01	-	0.17	0.01	0.03	-	0.18
令和2年	計	116.84	3.52	10.67	61.74	156.51	13.48	4.94	3.53	23.18	2.58	3.59	1.00	14.36
令和元年	計	476.25	36.96	25.65	139.11	316.88	26.99	162.01	42.20	22.91	38.33	5.95	1.87	29.69
令和2年/令和元年比		0.2	0.1	0.4	0.4	0.5	0.5	0.0	0.1	1.0	0.1	0.6	0.5	0.5

(-0)

※ 定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-10 定点把握対象疾患(基幹)
週単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和2年)

週	月/日(週開始日)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ(入院患者)	週	月/日(週開始日)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ(入院患者)
1	12/30	-	-	7	-	-	27	1	12/30	-	-	0.64	-	-	2.45
2	01/06	-	-	5	-	-	37	2	01/06	-	-	0.45	-	-	3.36
3	01/13	-	-	4	-	-	25	3	01/13	-	-	0.36	-	-	2.27
4	01/20	1	-	-	-	-	17	4	01/20	0.09	-	-	-	-	1.55
5	01/27	-	1	3	-	-	3	5	01/27	-	0.09	0.27	-	-	0.27
6	02/03	-	-	9	-	1	11	6	02/03	-	-	0.82	-	0.09	1.00
7	02/10	-	2	6	-	-	3	7	02/10	-	0.18	0.55	-	-	0.27
8	02/17	-	-	3	-	-	4	8	02/17	-	-	0.27	-	-	0.36
9	02/24	-	-	1	-	-	1	9	02/24	-	-	0.09	-	-	0.09
10	03/02	-	-	4	-	-	-	10	03/02	-	-	0.36	-	-	-
11	03/09	-	-	7	-	-	1	11	03/09	-	-	0.64	-	-	0.09
12	03/16	-	-	4	-	-	2	12	03/16	-	-	0.36	-	-	0.18
13	03/23	1	-	4	-	-	-	13	03/23	0.09	-	0.36	-	-	-
14	03/30	2	1	4	-	-	-	14	03/30	0.18	0.09	0.36	-	-	-
15	04/06	-	-	4	-	-	-	15	04/06	-	-	0.36	-	-	-
16	04/13	1	-	1	-	-	-	16	04/13	0.09	-	0.09	-	-	-
17	04/20	-	1	6	-	-	-	17	04/20	-	0.09	0.55	-	-	-
18	04/27	-	1	1	-	-	-	18	04/27	-	0.09	0.09	-	-	-
19	05/04	-	-	1	-	-	-	19	05/04	-	-	0.09	-	-	-
20	05/11	1	-	-	-	-	-	20	05/11	0.09	-	-	-	-	-
21	05/18	-	-	-	-	-	-	21	05/18	-	-	-	-	-	-
22	05/25	-	-	-	-	-	-	22	05/25	-	-	-	-	-	-
23	06/01	1	-	1	-	-	-	23	06/01	0.09	-	0.09	-	-	-
24	06/08	-	-	-	-	-	-	24	06/08	-	-	-	-	-	-
25	06/15	-	2	-	-	-	-	25	06/15	-	0.18	-	-	-	-
26	06/22	1	-	-	-	-	-	26	06/22	0.09	-	-	-	-	-
27	06/29	-	1	1	-	-	-	27	06/29	-	0.09	0.09	-	-	-
28	07/06	1	1	-	-	-	-	28	07/06	0.09	0.09	-	-	-	-
29	07/13	-	2	-	-	-	-	29	07/13	-	0.18	-	-	-	-
30	07/20	-	-	-	-	-	-	30	07/20	-	-	-	-	-	-
31	07/27	-	-	1	-	-	-	31	07/27	-	-	0.09	-	-	-
32	08/03	-	-	-	-	-	-	32	08/03	-	-	-	-	-	-
33	08/10	-	1	-	-	-	-	33	08/10	-	0.09	-	-	-	-
34	08/17	-	1	2	-	-	-	34	08/17	-	0.09	0.18	-	-	-
35	08/24	-	2	1	-	-	-	35	08/24	-	0.18	0.09	-	-	-
36	08/31	-	2	1	-	-	-	36	08/31	-	0.18	0.09	-	-	-
37	09/07	-	1	1	-	-	-	37	09/07	-	0.09	0.09	-	-	-
38	09/14	-	-	1	-	-	-	38	09/14	-	-	0.09	-	-	-
39	09/21	-	1	-	-	-	-	39	09/21	-	0.09	-	-	-	-
40	09/28	-	-	-	-	-	-	40	09/28	-	-	-	-	-	-
41	10/05	-	-	-	-	-	-	41	10/05	-	-	-	-	-	-
42	10/12	-	-	-	-	-	-	42	10/12	-	-	-	-	-	-
43	10/19	-	-	1	-	-	-	43	10/19	-	-	0.09	-	-	-
44	10/26	-	-	1	-	-	-	44	10/26	-	-	0.09	-	-	-
45	11/02	-	-	1	-	-	-	45	11/02	-	-	0.09	-	-	-
46	11/09	-	-	-	-	-	-	46	11/09	-	-	-	-	-	-
47	11/16	-	1	-	-	-	-	47	11/16	-	0.09	-	-	-	-
48	11/23	1	-	-	-	-	-	48	11/23	0.09	-	-	-	-	-
49	11/30	-	1	-	-	-	-	49	11/30	-	0.09	-	-	-	-
50	12/07	1	-	1	-	-	-	50	12/07	0.09	-	0.09	-	-	-
51	12/14	-	-	-	-	-	-	51	12/14	-	-	-	-	-	-
52	12/21	-	-	-	-	-	-	52	12/21	-	-	-	-	-	-
53	12/28	1	-	-	-	-	-	53	12/28	0.09	-	-	-	-	-
令和2年	計	12	22	87	-	1	131	令和2年	計	1.09	2.00	7.91	-	0.09	11.91
令和元年	計	7	39	141	1	125	579	令和元年	計	0.64	3.55	12.82	0.09	11.36	52.64
令和2年/令和元年比		1.7	0.6	0.6	-	0.0	0.2	令和2年/令和元年比		1.7	0.6	0.6	-	0.0	0.2

(-0)

(-0)

※ 定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-11 定点把握対象疾患(基幹)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和2年)

月	メチリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	18	1.64	4	0.36	-	-
2月	10	0.91	3	0.27	1	0.09
3月	11	1.00	4	0.36	-	-
4月	14	1.27	2	0.18	-	-
5月	12	1.09	-	-	-	-
6月	16	1.45	2	0.18	-	-
7月	12	1.09	3	0.27	1	0.09
8月	20	1.82	1	0.09	1	0.09
9月	10	0.91	1	0.09	-	-
10月	11	1.00	1	0.09	-	-
11月	12	1.09	6	0.55	2	0.18
12月	14	1.27	1	0.09	1	0.09
令和2年 計	160	14.55	28	2.55	6	0.55
令和元年 計	201	18.27	55	5.00	7	0.64
令和2年/令和元年比	0.8	0.8	0.5	0.5	0.9	0.9

(-0)

※ 定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-12 定点把握対象疾患(性感染症)
月単位報告数・定点当たり報告数の推移(令和2年)

月	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス 感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数	報告患者数	定点当たり 報告数
1月	142	2.45	44	0.76	10	0.17	44	0.76
2月	128	2.17	26	0.44	19	0.32	20	0.34
3月	160	2.76	44	0.76	24	0.41	24	0.41
4月	130	2.20	34	0.58	21	0.36	21	0.36
5月	141	2.39	47	0.80	18	0.31	31	0.53
6月	126	2.14	45	0.76	33	0.56	37	0.63
7月	139	2.36	43	0.73	26	0.44	32	0.54
8月	141	2.39	40	0.68	20	0.34	39	0.66
9月	151	2.56	44	0.75	18	0.31	30	0.51
10月	129	2.19	47	0.80	22	0.37	36	0.61
11月	107	1.81	37	0.63	19	0.32	37	0.63
12月	102	1.76	43	0.74	19	0.33	29	0.50
令和2年 計	1,596	27.19	494	8.42	249	4.24	380	6.47
令和元年 計	1,609	27.60	503	8.63	224	3.84	415	7.12
令和2年/令和元年比	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1	0.9	0.9

※ 定点当たり報告数は、小数点第3位を四捨五入。

表Ⅲ-1-13 定点把握対象疾患(性感染症)
性年齢階級別報告患者数の推移(令和2年)

年齢階級	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
0歳	-	-	-	-	-	-	-	-
1-4歳	-	-	-	-	-	-	-	1
5-9歳	-	-	-	-	-	-	-	-
10-14歳	-	1	-	4	-	-	-	1
15-19歳	33	111	2	14	-	7	14	9
20-24歳	133	369	12	57	7	38	68	27
25-29歳	134	294	16	73	24	42	49	20
30-34歳	71	147	18	58	5	19	41	12
35-39歳	58	54	16	38	7	15	26	4
40-44歳	44	26	4	40	17	7	29	5
45-49歳	37	26	7	42	10	5	25	2
50-54歳	18	7	11	15	13	3	21	3
55-59歳	11	3	9	12	6	2	10	2
60-64歳	10	2	2	9	10	1	6	1
65-69歳	3	-	4	8	3	-	2	-
70歳～	4	-	-	23	5	3	2	-
合計	556	1,040	101	393	107	142	293	87
男女比	0.53	1.00	0.26	1.00	0.75	1.00	3.37	1.00

(-0)

(2) 病原体情報

a. 全数把握対象疾患の病原体検出状況

(a) 一類・二類感染症の病原体検出状況

一類感染症の検出はなかった。

二類感染症の結核菌は、遺伝子中の多重反復配列の反復数を株間で比較する Variable Numbers of Tandem Repeats 法(VNTR 法)等の遺伝子解析を埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで実施している。令和2年に医療機関から収集され、遺伝子解析に供試された肺結核患者由来の分離菌株は190株であった。これらの解析結果では、北京型は127株(66.8%)、非北京型は61株(32.1%)、型別できなかつたものが2株であった。さらに、北京型127株の系統推定では95株(74.8%)が祖先型、28株(22.0%)が新興型、4株が推定不能であった。

(b) 三類感染症の病原体検出状況

三類感染症の細菌は、赤痢菌6株、腸管出血性大腸菌94株、チフス菌1株の計101株で、コレラ菌、パラチフスA菌は分離されなかった。このうち国外感染例からの分離は、赤痢菌5株であった。国内感染例からの分離は、赤痢菌1株、腸管出血性大腸菌94株、チフス菌1株であった。

(表Ⅲ-1-14)。

表Ⅲ-1-14 埼玉県 の三類感染症細菌検出状況(令和2年)

	コレラ菌	赤痢菌	腸管出血性大腸菌	チフス菌	パラチフスA菌	合計
国外感染	-	5	-	-	-	5
国内感染	-	1	94	1	-	96
合計	-	6	94	1	-	101
						(-:0)

赤痢菌の菌種は、*Shigella sonnei*が3株、*Shigella flexneri*が3株の計6株であった。このうち5株が海外渡航歴のある患者から分離され、推定感染地域はそれぞれニューカレドニア、タイ・パキスタンであった。国内感染が疑われる株は*Shigella sonnei*で1株であった(表Ⅲ-1-15)。

表Ⅲ-1-15 県内で分離された赤痢菌(令和2年)

分離月	菌種	性別	年齢	推定感染地域
1月	<i>S. sonnei</i>	女	50歳代	ニューカレドニア
1月	<i>S. sonnei</i>	女	20歳代	ニューカレドニア
1月	<i>S. flexneri 2a</i>	女	30歳代	タイ・パキスタン
1月	<i>S. flexneri 2a</i>	男	10歳未満	タイ・パキスタン
1月	<i>S. flexneri 2a</i>	男	10歳未満	タイ・パキスタン
11月	<i>S. sonnei</i>	男	30歳代	国内

腸管出血性大腸菌は94株であった。血清型別では、12血清型が検出された。最も多く検出された血清型は例年同様O157:H7で63株(67.0%)であった。次いでO157:H-が9株(9.6%)、O26:H11が6株、O103:H2が5株、その他の血清型は3株以下であった。毒素型では、VT1&2が51株(54.2%)、VT2が26株(27.7%)、VT1が17株(18.1%)であった(表Ⅲ-1-16)。

表Ⅲ-1-16 腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(令和2年)

血清型	毒素型			計
	VT1	VT2	VT1&2	
O157:H7	-	19	44	63
O157:H-	1	2	6	9
O26:H11	6	-	-	6
O26:H-	2	-	-	2
O20:H41	-	1	-	1
O91:H14	1	-	-	1
O103:H2	5	-	-	5
O115:H10	1	-	-	1
O121:H19	-	2	-	2
O181:H49	-	1	-	1
OUT:H-	1	1	-	2
OUT:H19	-	-	1	1
合計	17	26	51	94
割合(%)	18.1	27.7	54.3	

(数値部分の-:0)

チフス菌は、7月に90歳代女性から1株分離された。海外渡航歴がなく、発症状況から国内での感染が疑われた。ファージ型はB1であった。

(c) 四類感染症の病原体検出状況

E型肝炎は17例24検体が採取され、9例12検体からE型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子型は、G3が6例、型別未確定が3例であった。ウイルスが検出された9例に海外渡航歴はなかった(表Ⅲ-1-17)。

A型肝炎は2例2検体が採取され、2例2検体からA型肝炎ウイルスが検出された。遺伝子型は、IAが2例であった。2例とも、海外渡航歴はなかった(表Ⅲ-1-17)。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は2例2検体が採取されたが、SFTSウイルスは検出されなかった(表Ⅲ-1-17)。

ジカウイルス感染症は1検体が採取されたが、ジカウイルスは検出されなかった(表Ⅲ-1-17)。

デング熱は2例2検体が採取され、1検体からデングウイルスが検出された。検出されたデングウイルスは型別不明で、ブラジルへの渡航歴があった(表Ⅲ-1-17)。

レジオネラ症は、肺炎症状を呈する患者から分離された *Legionella* 属菌は9株で、全て *Legionella pneumophila* 血清群1であった。また、LAMPのみ陽性を示したのは、5件であった。

表Ⅲ-1-17 月別四類ウイルス検出状況(全数把握対象令和2年)

令和3年1月29日 現在

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
		5	8	2	1	2	5	1		2	3	2		31
E型肝炎	検体数	5	6	1		2	3			2	3	2		24
	E型肝炎		5			1	2				2	2		12
A型肝炎	検体数		1					1						2
	A型肝炎		1					1						2
重症熱性血小板減少症候群	検体数						2							2
	SFTS													
ジカウイルス感染症	検体数				1									1
	ジカ													
デング熱	検体数		1	1										2
	デング		1											1

(d) 五類感染症全数把握対象疾患の病原体検出状況

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症では、8菌種、76株のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)が分離された。最も多く分離されたのは、*Klebsiella aerogenes*で35株(46.1%)、次いで *Enterobacter cloacae* complexが20株(26.3%)、*Serratia marcescens*が5株、*Escherichia coli*、*K. pneumoniae*、*K. oxytoca*がそれぞれ4株、*Citrobacter freundii*が3株 *Enterobacter sp.*が1株の順であった。*Klebsiella*属は、43株(*K. aerogenes* 35株、*K. pneumoniae* 4株、*K. oxytoca* 4株)で全体の56.6%を占めていた。薬剤耐性遺伝子は、主にカルバペネマーゼ遺伝子(NDM型、KPC型、IMP型、VIM型、GES型、OXA-48型)6種、基質特異性拡張型βラクタマーゼ(ESBL)遺伝子(TEM型、SHV型、CTX-M-1group、CTX-M-2group、CTX-M-9group)5種、AmpC型βラクタマーゼ遺伝子(ACC型、CIT型、DHA型、EBC型、FOX型、MOX型)6種の計17種類について検査を実施した。カルバペネマーゼ遺伝子保有株いわゆるカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)は、12株(15.8%)であった。このうちIMP型保有株は11株でCPEの91.7%を占めていた。このほかNDM型が1株分離された。CPEの菌種は、*K. pneumoniae*、*K. oxytoca*、*E. cloacae* complex、*C. freundii*、*E. coli*の5菌種であった。ESBL遺伝子保有株は8株(10.5%)、AmpC型βラクタマーゼ遺伝子保有株は15株(19.7%)であった。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)は、1例6検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった(表Ⅲ-1-18)。

急性脳炎は14例35検体が採取され、3例5検体から6件のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、単純ヘルペスウイルス1型及びサイトメガロウイルスがそれぞれ1例2件、EBウイルス及びノロウイルス

ス G2 がそれぞれ 1 件であった。このうち単純ヘルペスウイルス 1 型と EB ウイルスが 1 検体から重複して検出された(表Ⅲ-1-18)。

劇症型溶血性レンサ球菌は 15 株分離された。うち *Streptococcus pyogenes* は 8 株、*S. dysgalactiae* subsp. *equisimilis* (SDSE) は 6 株、B 群溶血性レンサ球菌 (GBS) である *S. agalactiae* は 1 株であった。*S. pyogenes* は、1 月、3 月、5 月、9 月、10 月に分離され、*emm* 型は、*emm81.0* が 4 株、*emm1.0*、*emm49.0*、*emm58.0*、*emm183.4* がそれぞれ 1 株分離された。T 型別では、T 1 型が 1 株、T 型別不能が 7 株であった。SDSE の *emm* 型は、*stG6792.3* が 2 株、*stC74a.0*、*stG10.0*、*stG485.0*、*stG652.0* がそれぞれ 1 株であった。1 株分離の *S. agalactiae*(GBS) の莢膜型は、Ⅲ型であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症由来の髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) は、1 月に 1 株分離された。血清型/シークエンスタイプは、血清群 B/ST5664 であった。

播種性クリプトコックス症は、*Cryptococcus neoformans* が 5 月と 6 月に 1 株ずつ、計 2 株分離された。

風しんは 10 例 27 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった(表Ⅲ-1-18)。

麻しんは 19 例 50 検体が採取されたが、麻しんウイルスは検出されなかった。麻しんウイルス以外の検出ウイルスは、水痘帯状疱疹しんウイルスが 1 例 3 件であった(表Ⅲ-1-18)。

表Ⅲ-1-18 月別五類ウイルス検出状況(全数把握対象令和 2 年)

臨床診断名	ウイルス	検出月 検体合計数												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
急性弛緩性麻痺	検体数	28	9	15	6	9	3	6	12	13	1	14	2	118	
	エンテロ D68								6					6	
急性脳炎 (四類以外)	検体数	7	6	5		4			2	5	1	5		35	
	単純ヘルペス 1									2				2	
	EB									1				1	
	サイトメガロ ノロ		1	2										2 1	
風しん	検体数	12		6	3	5		1						27	
麻しん	検体数	9	3	4	3		3	5	4	8		9	2	50	水痘帯状疱疹しん(3)
	麻しん														

令和3年 1月29日 現在

(e) 五類感染症定点把握対象疾患の病原体検出状況

インフルエンザは令和 2 年 1 月から 3 月までに 300 検体が採取された。インフルエンザウイルスの検出数は、AH1pdm09 が 209 件、B 型 72 件、AH3 亜型が 7 件、A 型亜型未確定が 1 件であった。インフルエンザウイ

ルス以外のウイルス検出は、ヒトメタニューモウイルス及びコロナウイルスがそれぞれ 1 件であった(表Ⅲ-1-19)。

表Ⅲ-1-19 月別インフルエンザウイルス検出状況
(定点把握対象令和 2 年)

臨床診断名	ウイルス	検出月												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ	検体数	175	97	28										300	ヒトメタニューモ(1)、コロナ(1)
	インフルエンザ AH1pdm09	153	55	1										209	
	インフルエンザ AH3	1	2	4										7	
	インフルエンザ A	1												1	
	インフルエンザ B	16	36	20										72	

令和3年 1月29日 現在

RS ウイルス感染症は 8 検体が採取され、6 件の RS ウイルスが検出された。検出された RS ウイルスはすべて RSV-A であった。RS ウイルス以外のウイルス検出は、パラインフルエンザウイルス 1 型及びライノウイルスがそれぞれ 1 件であった(表Ⅲ-1-20)。

咽頭結膜熱は 10 検体が採取された。検出されたアデノウイルスは、アデノウイルス 2 型が 3 件、1 型及び 3 型がそれぞれ 2 件、5 型が 1 件であった(表Ⅲ-1-20)。

感染性胃腸炎は 32 検体が採取され、ノロウイルスが 11 件、アデノウイルス 40/41 型が 2 件、サポウイルスが 1 件検出された。ノロウイルスの遺伝子型は G2 が 10 件、G1 が 1 件であった。他のウイルスとしては、ライノウイルスが 3 件、アデノウイルス 2 型が 2 件、アデノウイルス 3 型及びサイトメガロウイルスがそれぞれ 1 件であった。なお、ウイルスが検出された 4 検体で複数のウイルスが重複して検出されていた(表Ⅲ-1-20)。この他に細菌では、*Campylobacter jejuni* が 10 月、11 月にそれぞれ 2 株の計 4 株が分離された。

手足口病は 9 検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルス A6 型が 1 件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、ライノウイルス及びアデノウイルス 3 型がそれぞれ 1 件であった(表Ⅲ-1-20)。

伝染性紅斑は 1 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった(表Ⅲ-1-20)。

突発性発しんは 2 検体が採取されたが、ウイルスは検出されなかった

(表Ⅲ-1-20)。

ヘルパンギーナは6検体が採取された。検出されたエンテロウイルスは、コクサッキーウイルスA4型が1件であった。エンテロウイルス以外のウイルス検出は、アデノウイルス2型が1件であった(表Ⅲ-1-20)。

流行性角結膜炎は1検体が採取され、アデノウイルス56型が検出された(表Ⅲ-1-20)。

無菌性髄膜炎は44例99検体が採取され、10例14検体から14件のウイルスが検出された。検出されたウイルスは、ヒトヘルペスウイルス7が4例4件、サイトメガロウイルスが3例4件、水痘・帯状疱疹ウイルスが1例3件、ライノウイルス、単純ヘルペスウイルス2型及びヒトヘルペスウイルス6がそれぞれ1件であった(表Ⅲ-1-20)。

表Ⅲ-1-20 月別五類ウイルス検出状況(定点把握対象令和2年)

		令和3年1月29日 現在												累計	その他のウイルス
臨床診断名	ウイルス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
	検出月 検体合計数	31	31	9	1	5	18	15	14	14	7	18	5	168	
RSウイルス 感染症	検体数	4	3				1							8	パラインフルエンザ1(1), ライノ(1)
	RS	3	3											6	
咽頭結膜熱	検体数	4	1	2					1	1	1			10	
	アデノ1	1		1										2	
	アデノ2		1						1	1				3	
	アデノ3	2												2	
	アデノ5	1												1	
感染性胃腸炎	検体数	10	7	5				2			3	4	1	32	
	ノロ	5	3	1				1				1		11	アデノ2(2), アデノ3(1), ライノ(3), サイトメガロ(1)
	サボ	1												1	
	アデノ40/41	1	1											2	
手足口病	検体数				1		1	2	1		1	2	1	9	
	コクサッキーA6												1	1	ライノ(1), アデノ3(1)
伝染性紅斑	検体数			1										1	
	ヒトパルボB19														
突発性発しん	検体数	1								1				2	
	ヒトヘルペス6														
	ヒトヘルペス7														
ヘルパンギーナ	検体数			1		1			2	1		1		6	
	コクサッキーA4											1		1	アデノ2(1)
流行性角結膜炎	検体数	1												1	
	アデノ56	1												1	
無菌性髄膜炎	検体数	11	20			4	16	11	10	11	2	11	3	99	
	ライノ							1		1				1	
	単純ヘルペス2													1	
	水痘・帯状疱疹											3		3	
	サイトメガロ		1				2			1				4	
	ヒトヘルペス6						1		1					1	
ヒトヘルペス7						1	2	1					4		

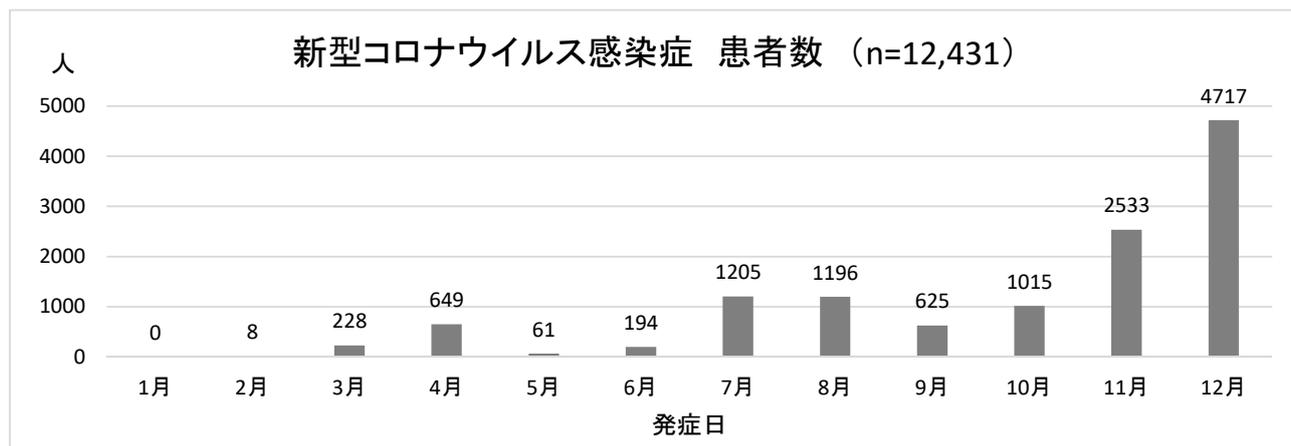
(3) 新型コロナウイルス感染症

令和2年2月1日から指定感染症に定められた新型コロナウイルス感染症の届出数は、12月31日までに男性7,964人、女性6,716人の計14,680人に上った(令和3年4月時点での暫定値)。症例の年齢は0歳から100歳代に分布した。年齢階級別では、20歳代、40歳代、50歳代、

30歳代の順に多く、20歳代から50歳代が9,867人で全体の67.2%を占めた。性別では、男性7,964人、女性6,716人で、男性が54.3%を占めた。類型別では、患者12,431人、無症状病原体保有者2,249人で、患者が全体の84.7%を占めた(表Ⅲ-1-21)。患者12,431人の月別の発生状況は2月に確認されて以降、3月から4月に第1波、7月から8月に第2波が観察された。その後、11月から患者数は急増し、第2波を大きく超える第3波が観察された(図Ⅲ-1-2)。

表Ⅲ-1-21 新型コロナウイルス感染症 年齢階級別届出数(令和2年)

年齢階級	症例数	性別		類型	
		男性	女性	患者	無症状病原体保有者
10歳未満	387	201	186	207	180
10歳代	1,056	545	511	796	260
20歳代	3,348	1,650	1,698	2,972	376
30歳代	2,124	1,304	820	1,863	261
40歳代	2,231	1,312	919	1,960	271
50歳代	2,164	1,207	957	1,887	277
60歳代	1,296	775	521	1,110	186
70歳代	1,160	632	528	949	211
80歳代	679	293	386	510	169
90歳以上	235	45	190	177	58
合計	14,680	7,964	6,716	12,431	2,249
割合	100.0%	54.3%	45.7%	84.7%	15.3%



図Ⅲ-1-2 新型コロナウイルス感染症 月別患者数(令和2年)

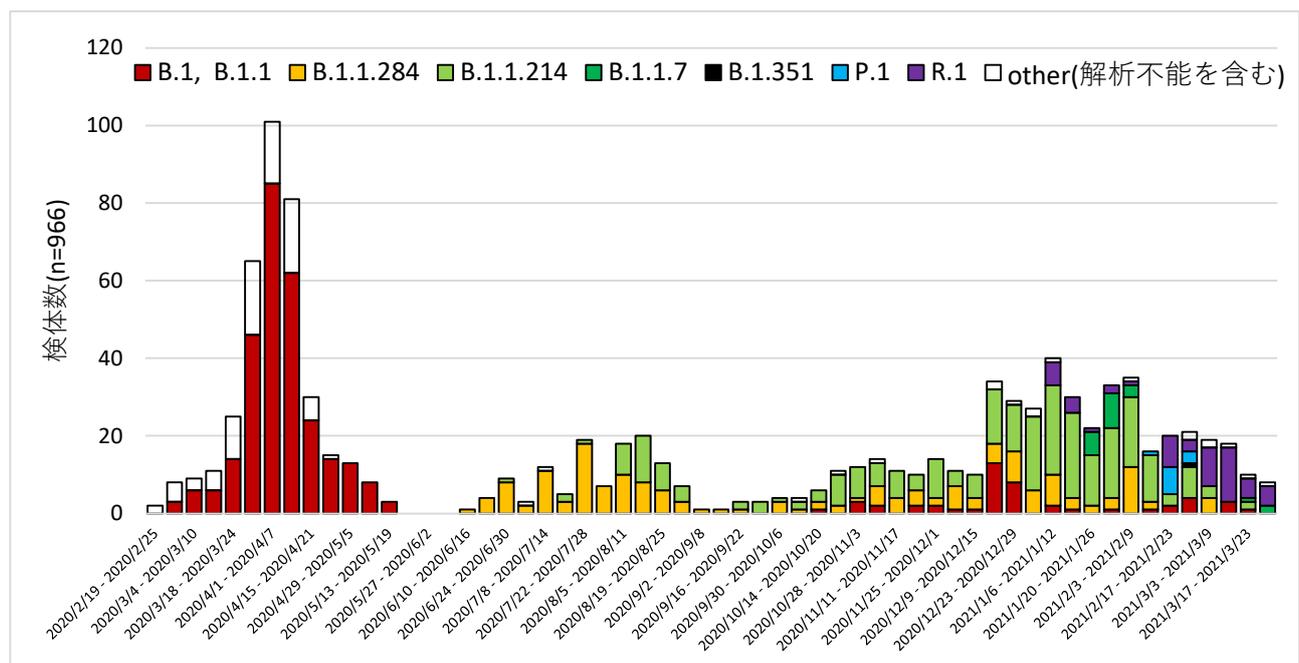
新型コロナウイルス感染症は47,147例、48,313検体が採取され、3,957例、4,082件の新型コロナウイルスが検出された(一部陰性確認を含む)。検体の採取が始まったのは2月で、月別の検体数は12月の9,550件が最も多かった。また、月別の陽性率は4月の16.9%が最も高かった。

なお、新型コロナウイルスが不検出だった検体のうち、432例 571検体についてその他の呼吸器系ウイルス検査を実施したところ、ヒトメタニューモウイルスが42例 55件、コロナウイルスが37例 45件、ライノウイルスが10例 13件、RSウイルスが6例 7件、ボカウイルスが4例 4件、パラインフルエンザウイルス4型が2例 2件、型別できなかったアデノウイルスが5例 6件検出された。このうち6検体で複数のウイルスが重複して検出された(令和3年1月29日現在)(表Ⅲ-1-22)。

表Ⅲ-1-22 月別新型コロナウイルス検出状況(令和2年)

臨床診断名	検出月 検体合計数	令和3年1月29日 現在												累計	その他のウイルス
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
新型コロナウイルス	ウイルス		248	1463	4052	3284	1699	5401	6398	3835	4422	7961	9550	48313	
新型コロナウイルス感染症	検体数		248	1463	4052	3284	1699	5401	6398	3835	4422	7961	9550	48313	コロナ(45)、ヒトメタニューモ(55)、RSウイルス(7)、ライノ(13)、パラインフルエンザウイルス4(2)、ボカウイルス(4)、アデノ(6)
	新型コロナ		2	122	684	166	78	427	514	198	342	584	965	4082	

また、新型コロナウイルスのゲノム解析を実施したところ、いわゆる「第1波」の令和2年(2020年)3月～5月にはB.1及びB.1.1、「第2波」の6月～8月にはB.1.1.284が多く検出された。B.1.1.214は8月以降増え始め、「第3波」の9月～令和3年(2021年)2月中旬までは、検出されたウイルスの大半を占めた(図Ⅲ-1-3)。



図Ⅲ-1-3 ゲノム解析結果(発症週毎)